

持って体感するエネルギーの重さ

11月25日(日) せんだいメディアテーク 1F オープンスクエアにて「環境フォーラムせんだい2007 ストップ・ザ・温暖化! わたしたちにできること」が開催されました。これは仙台市に設置されている「杜の都の市民環境教育・学習推進会議(略称:FEEL Sendai)」が主催し、仙台近郊の多くの環境団体、市民、企業等が集まって組織する実行委員会が企画する環境イベントで、今年で8回目となります。

今年はタイトルどおり温暖化防止をテーマとし、MELONもブース出展しました。MELONブースでは、1人が1日に使うエネルギー(電

気)の量を原油換算した重さを体験してもらう企画を実施しました。来場者は想像以上の重さに驚く方が多く、省エネの必要性を実感してもらえたようです。

会場内では各団体の趣向をこらしたブースが目白押しで、一般公募した環境映像の上映会もあり、合計1,800名の来場者でにぎわいました。今後もこうしたわかりやすい、楽しめるイベントに積極的に参加していきたいと思ひます。



「ダイズにしなきゃあ」

「神(ハタハタ)がきたっ!」と地元の人たちはウェットスーツにまで身を包んで、少し荒れた冬の海へ釣り竿を持って行く。季節に沸き立つ町、秋田県八峰町に行きました。小さな豆腐屋さんで、少し豆腐づくりの勉強をしてきました。豆腐の原料である大豆から見える私たちの生活と環境をずいぶん教えていただきました。大豆の自給率は4%。国内産の大豆は比較的食用に利用されています。国内でとれたり輸入されたりしている大豆の7割が絞られて油として利用されています。そのかす(大豆ミール)は牛、豚、鶏などのえさになって、また私たちの口に入ってくるのです。先日の「杜のともしびLIVE」の移動に使われた廃油もそうでしょうか、文字通り「マメにつながっている」のですね。

さて、いま、化石燃料の石油に代わる「油」としてサトウキビやトウモロコシからエタノールを、大豆の油も利用しようと世界的な動きがあります。確かにCO₂は減りますが、バイオ燃料を得るために森林の伐採や遺伝子組み換え作物が広がればまた別の問題も生じてくるのです。♪肉は

どこから来るかしら・・・別に歌わなくてもいいのですが、トウモロコシや大豆など穀物をたくさん飼料にして牛などが育てられるわけですから、肉を食べれば食べるほどトウモロコシも大豆も消費されるわけです。たかが大豆とあなどれないほど私たちには「ダイズなんだ」。

豆腐屋のおじさんは、この くくぶん まきえ 編 うえの なおひろ 絵「ダイズの絵本」(農文協 1998年)を紹介してくれました。おうっ、トップは「ダイズは畑の牛肉だ!」だ。タンパク質、脂肪があるからね。それにしても各ページのタイトルがステキです。この断定的ないい方ですが、それだけ、私たちにもこどもの耳に残ります。「ダイズは畑の牛肉だ!」・・・「ソーヤ!」と声を返したくなります。

大きな工場で作られる安い豆腐だけでなく、ほんとうに環境のことや農家のことまで思いやり、豆腐を作り続けている方がいるというのは、わたしたちがとても「ダイズ」にしなくてはいけないことなんだと、小さくても環境のことを考えているたくさんの方がこの町にはいるんだ。子どもたちに、この絵本を読んであげながら考えてみたいのです。

